

第10回クリーンセンター滋賀環境監視委員会会議概要

1. 日時平成 19年 9月18日(金)14:00~16:30
2. 開催場所 クリーンセンター滋賀 工事現場および JV 現場事務所
3. 出席者 環境監視委員

学識経験者:金谷委員

住民代表:中島茂委員、中邨委員、渡邊委員

事業者:平木委員、岩倉委員

滋賀県:平田委員

甲賀市:稲葉委員(代理)、辻委員、松山委員

環境事業公社:清水委員

事務局:財団法人滋賀県環境事業公社



4. 議事概要

1) 現地確認調査

- ・工事区画の最上部から工事全体の進捗状況を確認。
- ・堰堤から浸出水貯留槽、遮水シート、浸出水集排水管等の工事の進捗状況を確認。

2) クリーンセンター滋賀の工事の進捗状況について

3) 搬入管理について

4) その他

- ・浸出水処理能力の設計根拠について
- ・漏水検知システムについて
- ・模型について



【主な意見および質疑】

① ガス抜き管の上方への延長はどのようにしていくのか。

→写真にあるとおりで、四角い箱型のものを随時上に足し、ボルトで止めて延ばしていきます。

② 通常作業する者の実力は大丈夫なのか。実際の廃棄物 13 品目(形、色、臭い等)がわかる人物が配置されるのか。目視検査はどうだったら受入可能なのか。受入廃棄物についてもっとわかりやすい基準が必要である。写真や数値で示し、受入可能な範囲(程度)についても決めておく必要がある。

→契約時に WDS(廃棄物データシート)、写真、現地調査などで、色は確認しデータベースに登録するのでそのデータを見ながらということになります。汚泥等4品目については、蛍光 X 線検査で契約時と違う物が搬入されてくればわかります。その他の物については今後実際に搬入されてくる廃棄物を見ながら検討していくことにしています。

③ 受入基準があるが、この記述を具体的なものとするための数値や写真などが必要ではないか。また、建設混合廃棄物ほどの程度の分別、減量化、資源化が行われたらよいのかを示す具体的な基準が必要ではないか。

→今後、内部向けのマニュアルを整備していく際に、ご意見を参考に検討します。

④ 委託申込み内容の期限はいつまでなのか。例えば年に1回お互いに確認することなどを考慮する必要があるのではないか。

→今後、ご意見を参考に検討します。



- ⑤当初はきちんとしていても、経営が苦しくなればだんだん受け入れが甘くなるというようなことはないか。
→契約時にきちんとすればチェックがゆるくなることはない(許可されていない物が入ってくることはない)と考えています。そのようなことにならないために開業後も引き続き当委員会で確認および監視をお願いします。
- ⑥日常業務をする人物、監視する人物等、開業後の組織体制はどうなるのか。
→公社職員が数名常駐し、全体管理、外部との調整、蛍光 X 線検査を行う予定です。また、受付から展開検査、場内運搬、埋立、覆土の作業、浸出水処理施設の運転管理および環境調査は外部に業務委託することを考えています。
- ⑦埋立作業については、マニュアルを作成し、埋立経験のある会社に業務委託するべきである。
→マニュアルについては作成中です。管理型処分場の埋立経験のある会社というのが、県内では大津公社しかありませんので難しいと思われまます。
- ⑧作業委託を受ける業者に対する研修として、どこかの処分場で事前研修を受け入れてもらうまたは、他の処分場などから熟練した作業員を指導者として短期間派遣要請をしてはどうか。
→今後、ご意見を参考に検討します。
- ⑨公社職員のプロパーは雇用しないのか。処分場の事を当初から全て知っているという人が必要と思う。県派遣の公社職員は数年で転勤されるので、わからなくなることが十分ありえる。「前任者に聞かないとわかりません。」では信頼は得られない。
→公社職員のプロパーの採用は難しいと考えられ、引継ぎ等の徹底を図っていくこととしています。また、秋の終わり頃には業者を決めて十分訓練をしたいと考えています。
- ⑩産業界、廃棄物業界など排出業者に意見は聞いたのか。
→意見交換会を行い、それを反映させて排出業者向けマニュアルを作成しました。また排出業者向け説明会を次週に実施予定です。(9/25,26 に実施済み)
- ⑪搬入管理マニュアルは何かを参考にされたのか。
→全国産業廃棄物連合会(全廃連)のものや先進地のものなどを参考に、公社独自の考え方を入れています。
- ⑫100年確率の雨では大丈夫ということとは別に、近年実際に降った集中豪雨の場合でも大丈夫であるという説明が必要ではないか。
→100年確率は、昭和33年から平成10年のデータで予測したが、近年のデータ(平成11年以降のデータ)でも確認します。
- ⑬非貯留部の漏水検知用電極配置(ベントナイト層の上に配置)はこれで良いのか。
→貯留部は遮水シートが2層なので上層シート(HDPE)の漏水を検知するよう下層シート(TPO-PP)との間に測定電極が配置されていますが、非貯留部は平面部分の下層シートの漏水を検知するよう測定電極が配置されています。
- ⑭スケール(カルシウムやマグネシウムの堆積物)が付着する等して、電極がダメになった場合はどうなるのか。
→精度が少し落ちる程度の影響も考えられるが基本的にはメーカーの行う厳しい暴露試験をパスしており、そんな事態は考えられないと施工業者から聞いています。

